



《 父親の愛情 》 『 飛鳥へ、そしてまだ見ぬ子へ 』 井村 和清

井村和清さんという方をご存知ですか？1979年1月にがん（骨肉腫）で32歳の若さでこの世を去った医師。ガンが発見されたのが1977年、30歳。転移を防ぐため、右足を切断、しかしその後、ガンが肺に転移していることがわかります。

闘病生活の中で、井村さんは、1歳6ヶ月の長女飛鳥ちゃんと、2人目の子どもを身ごもった妻の倫子さんに、感謝の気持ちと、いつまでも一緒に生きて行きたいのに、それができない悲しみ、子どもたちの想いを手記に綴り始めました。

「 ふたりの子どもたちへ 」

* 全文ではありません

心の優しい思いやりのある子に育ちますように。

父親がいなくても、胸を張って生きなさい。私は最後まで負けない。お前たちの誇りになれるよう、決して負けない。だからお前たちも、これからどんな困難に遭うかもしれないが、負けないで耐え抜きなさい。

星の王子様のサン・テグジュペリが書いている。大切な物はいつだって目に見えない。人とはかく目に見えるものだけで判断しようとしているけど、目に見えているのは、いずれは消えてなくなる。いつまでも残るものは、目に見えないものだよ。人間は、死ねばそれで全てが無に帰する訳ではない。目には見えないが、私はいつまでも生きている。お前たちと一緒に生きている。だから、私に逢いたくなる日がきたら手を合わせなさい。そして心で私を見つめてごらん。

お母さんを守ってあげなさい。二人の力で守ってあげれば、どんな苦労だって乗り越えられるよ。そしてもし、私が死んだ後、お母さんが淋しがっていたら、慰めてあげなさい。

思いやりのある子とは、周りの人が悲しんでいたら、ともに悲しみ、喜んでいて人がいたらその人のために一緒に喜べる人だ。思いやりのある子は周りを幸せにする。周りの人を幸せにする人は、周りの人々によって、もっともっと幸せにされる、世界で一番幸せな人だ。だから、心の優しい、思いやりのある子に育って欲しい。それが私の祈りだ。

さようなら。私はもう、いくらもお前たちの傍にいてやれない。お前たちが倒れても、手を貸してやることもできない。だから、倒れても倒れても自分の力で起き上がりなさい。

さようなら。お前たちがいつまでも、いつまでも幸せでありますように。

「雪の降る夜に」(父より)

父の子を思う心は海のように広くて温かく、深い愛であふれているのでしょう。子どもが困難に出会ったときに、傍にいてあげられず、守ってあげられないのは父としてとても辛いことだと思いますが、この手記が、残された子どもたちの心の支えになるとと思います。